

河川23 中筋川付替工事(高知県)

資料名	ストック効果に関する記述
中村工事事務所編「渡川改修四十年史」(四国建設弘済会、1970年)、243頁	昭和17年度 1.一般概況 (中略)坂本背割堤は延長2,150mのうち900mを施工し、本年夏の洪水においては中筋川の洪水位を70cm低下するなどその効果をあらわしてきた。
四国地方整備局中村河川国道事務所編「中村工事事務所70年のあゆみ 悠久への渡」(四国地方整備局中村河川国道事務所、2000年)、19頁	甲ヶ峯掘削工事により被害が軽減 (中略)四万十川との合流点を山路から実崎まで、3km下流に移し、水位を2m以上低下させる計画が進められた。その結果、1964(昭和39)年、同工事の完工により、地区内の排水状況も良くなり、土地の利用価値も高まっていった。
四国の建設のあゆみ編纂委員会編「四国の建設のあゆみ」(四国建設弘済会、1990年)、601頁	甲ヶ峯の開削(中筋川の付替) (中略)三十九年二月四日新水路に通水し、同三月末に旧合流点の締切りを完了し、水衝部などの重要護岸を概成した。この結果、図のように中筋川では大幅な水位低下が可能となった。
建設省四国地方建設局監修「四国地方建設局十年史」(建設省四国地方建設局、1968年)、121頁	中筋川付替工事 (中略)昭和39年2月4日新水路に通水し、同3月末に旧合流点の締切りを完了し、水衝部等の重要護岸を概成した。41年度には山路背割堤を延長して中筋川の付替工事は全工事を完了した。合流点の付け替えによる経済効果は、当初計画より年平均で3,200万円の被害額が減少する(S16~19年、25~30年の10カ年間の被害額の平均値)。さらに出水規模が小さくなり、洪水時間も短縮し間接的(交通通信の確保、民生安定等)な効果も大きい。